

令和6年度 神奈川県小学生陸上競技秋季交流記録会競技者注意事項 令和6年3月27日作成

- 1 規 則 本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則を準用して実施する。ただし、児童である年齢を考慮した教育的配慮のもとに競技・運営をする。
- 2 練 習 練習は練習場または指定された場所を利用すること。
- 3 プロ訂正 プログラムのアスリートビブス(ナンバーカード)や氏名等に記載誤りがあった場合は、午前9時までに受付に申し出ること。
- 4 招 集 (1)招集所は100mスタート地点後方に設ける(朝の受付とは別)
(2)出場者は自分の出場する種目ごとに、プログラム記載の招集時間内に招集所で自分の名前をチェックし、レーン表示ナンバーカード(腰ナンバーカード)を受け取り、右腰後方に取り付ける。(安全ピンは招集所で用意する。)
(3)招集時間は、トラック種目:競技開始35分前~20分前まで、フィールド種目:45分前~30分前まで、プログラムに記載してあるので時間に遅れないようにすること。その後は、競技者係審判員の指示に従うこと。
- 5 退 場 競技役員の指示に従って退場すること。
- 6 アスリートビブス
(1)アスリートビブスは受付時に配布する。また、競技終了後、アスリートビブスはナンバー順にそろえて必ず返却すること。
(2)安全ピン(1名につき8本必要)は個人またはチームで用意すること。
(3)アスリートビブスは胸と背に配布時の状態で、1枚ずつ確実につけること。
(4)トラック競技出場者は、レーン表示ナンバー(腰ナンバーカード)を腰部分の体側右後方につけること。招集時に招集所にて配付する。レース終了後回収する。腰ナンバー用の安全ピンは、招集所で用意し、競技終了後返却する。
- 7 リレー競技 リレー競技に出場するチームは「リレーオーダー用紙」1部を、集合完了60分前までに提出すること。チーム責任者は忘れずに提出すること。(用紙は競技者係にある。提出も同じ場所)プログラムにもついている。
- 8 競技方法 (1)計 時 トラック種目は写真判定で行う
(2)リレー 次走者のバトンの受け渡しは、30mのリレーゾーン内で行う。次走者はゾーンの中でスタートしなければならない。
(3)スタート ①トラック種目は、クラウチングスタートとする。スターティングブロックは使用しなくても良い。
但し、3・4年生については、スタンディングスタートも認める。
②スタートはイングリッシュコールとする。不正出発に関するルールは、旧ルールで行い、同一競技者が2回不正出発を行った場合は失格とする。ただし、退場ではなく、オープン出場とする。(そのまま競技は続けるが、順位はなし、記録のみ測定する参考記録扱いとする。)
(4)スパイクの使用を認める。(ピンの長さはトラック7mm以下、フィールド9mm以下)。
スパイクは使用しなくともよい。競技用シューズについての規則(靴底規則)は適用しない。なお、素足での出場は認めない。雨天時はスパイクの使用が望ましい。
(5)走幅跳
①試技は3回とする。
②3ラウンド試技で行う。
(6)ジャベボール投
①試技は3回とする。
②3ラウンド試技で行う。
③ジャベボールは普及部で用意し、個人・チームでの持ち込みは不可。

(7) 走高跳

- ① 跳躍方法は「はさみ跳び」で行う。着地は必ず足裏から着地すること。足裏から着地できない場合は不正試技とする。
- ② 試技は3回連続で失敗したら競技終了とする。
- ③ バーの上げ方は、次のとおりとする。(男女同じ)
 - ・練習は1m00で行う。試技は1m00から行き、以降5cm刻みで上げていく。
 - ・1m35まで5cm刻みで上げ、それ以後は3cm刻みで上げる。

(8) 80mハードル 小学生の場合は小学生用ハードルを使用し、下記の規定で行う。

スタートから第1ハードル	ハードルの高さ	ハードル間の距離	台数	最終ハードルからフィニッシュ
13m	70cm	7m00cm	9台	11m00cm
0m ~13m	~20m	~27m ~34m	~41m ~48m	~55m ~62m ~69m ~80m

- 9 記録証 記録証は、競技出場者全員に授与する。記録証はチーム責任者が浄書すること。
- 10 等級章 小学生で神奈川陸協の「神奈川小学生陸上運動等級記録」に達した場合は、当日中に申請し確認した者には、等級別ワッペンを交付する。(詳細についてはプログラムを参照)
- 11 試技およびレーン順は、主催者が公平に決める。(大会プログラム参照)
- 12 競技順序、競技日程及び競技のリザルトは県陸協ホームページを参照のこと。(リザルトについては大会終了後2~3週間で掲載する)
- 13 ゴミは各自で持ち帰る。また、貴重品等は各自の責任で管理すること。
- 14 荒天等で中止することもある。その際は申込者にメールにて連絡する。その場合も参加料は返還しない。